

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol. 86

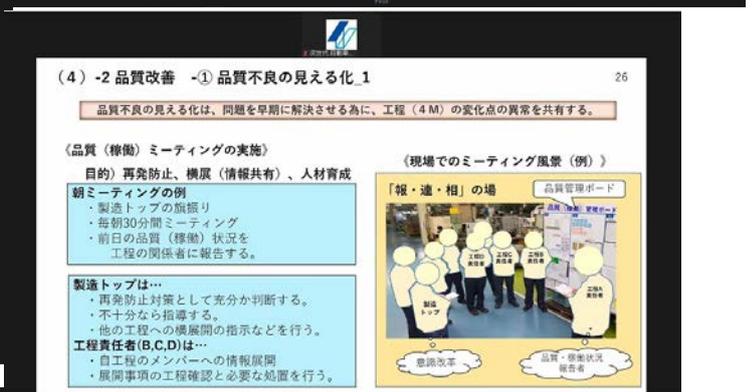
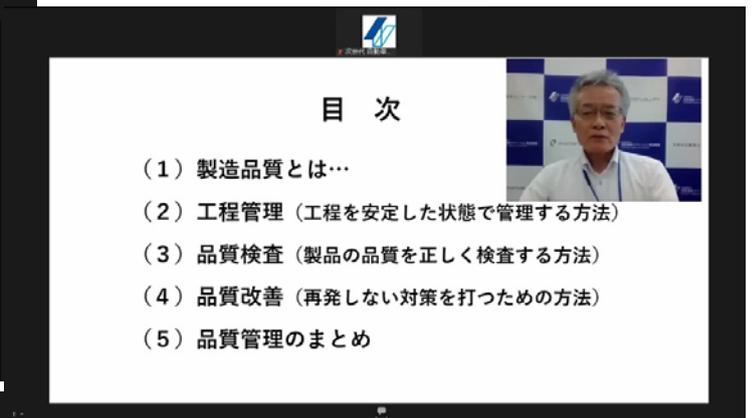
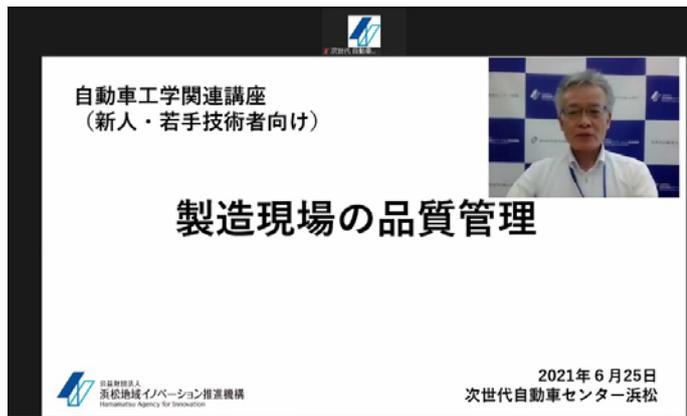
■ 自動車工学関連講座

製造現場の品質管理について (Web セミナー) (会員限定)

次世代自動車センター浜松では、新型コロナウイルス感染症対応として、昨年度より自動車工学関連講座として、新入社員及び若手技術者向け Web セミナーを実施することとしました。

今回は、その第3弾として、自動車関連部品の製造工程の品質管理方法についての基礎知識を習得して頂くことを目的に、当センターの眞崎コーディネータが講師となり、自動車工学関連講座「製造現場の品質管理について」を Web 形式で開催しました。

- 日 時 : 令和3年6月25日 (金) 13時30分~14時30分
- 場 所 : web形式
- 参加者 : 47社/99名



【参加者の声】

- 品質管理の具体的な手法を学ぶ良い機会だった。曖昧なままで作業している部分を作業標準書や限度見本等を作成して標準化していきたいと思う。
- 品質管理の業務に携わる者として理解しておくべき内容であり、具体例を交えての説明がされていたため分かりやすく大変参考になった。
- 製造現場だけでなく、再発防止活動などの取り組みは、どの職場でも共通して活用しなければならず、とても参考になった。
- 私の業務内容は品質検査の為、講座内容が常日頃困っている点や業務の進め方等の参考となる部分が多く、自身の部署内へフィードバックできる為、大変参考になった。
- 品質を守ることは人命を守ることに繋がり、品質も守る重要性を再認識させてもらった。
- 顧客へ提供する製品の品質を確保するためには、単に漠然としたルールを設けるのではなく、作業手順の標準化や問題点、変化点の見える化、不良の再発防止対策などが重要であり、それらをどうしていけばよいのかを講義の中で学ぶことができた。
- 品質管理とは、「工程管理」「品質検査」「品質改善」のPDCAのサイクルを廻して安定した品質の製品を生産する必要があることが分かった。
- 品質を改善・維持していくには三現主義に基づき行っていくのが大切だという事がわかった。作業標準書は誰が見ても分かり易くする必要性を感じた。
- 品質検査の中でも、受入検査、工程内検査、出荷(完成品)検査の4つの方法があり、全数検査、抜取り検査非破壊検査、破壊検査と種類にわかれていることを知ることができた。
- 品質管理を工程管理・品質検査・品質改善の3トピックに分解し、それぞれについてのまとめがあったため、内容が散り散りにならなく理解のしやすさにつながっていた。
- 新入社員及び若手技術者が主な対象であったが、用語の補足説明もあったため理解を深めながら講座に参加することができた。
- 再発防止活動に関して、具体的な内容(標準類の改訂、教育、作業方法)がまとめられており、普段の業務にも活用出来る内容だった。